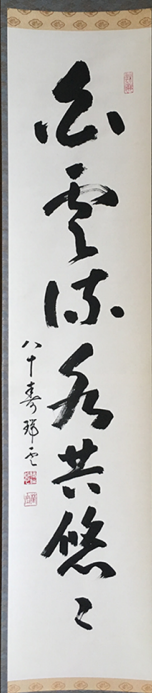


實相寺 花園会報

「白雲清水共に悠々」
はくうんせいすいとち ゆうゆう

筆 元妙心寺管長 松山萬密老大師
(明治四十一年〜平成十五年)



七月の西日本各地での豪雨災害では、残念ながら花園会員も数名の方がお亡くなりになったようです。妙心寺派では災害対策本部を設置し、「妙心寺派災害救援金」を募ると共に被災地域への支援を行っています。ご協力頂ける方は、ご送付または棚経の際などにお預け頂ければ、お盆明けに實相寺花園会として一括して送金致しますので、何卒宜しくお願い致します。

平成三十年

八月一日発行

発行所

臨済宗妙心寺派

陽明山 實相寺

實相寺花園会

〒761-0450

高松市三谷町

1811番地1

TEL087-889-3838

編集発行人

山本文匡

http://www.jissouji.net

第113号

各種お知らせ

・境内一斉清掃の報告

8月5日午前7時30分より境内清掃を行いました。今年は連日「命に危険のある暑さ」が続いている為、範囲を縮小し、9時には掃除を終えて秋月塔と無縫塔へお参り致しました。猛暑の中、花園会から26名、坐禅会から5名のご参加がありました。ご協力頂いた皆様、誠に有難うございました。



・講演会のご案内

8月30日(木) 10時30分〜12時
瓦町FLAG8階の健康ステーション
大会議に於いて、高松市の主催により「地球温暖化の現状と私たちにできること」と題された講演会が開かれます。講師は片山仁子氏、参加費は無料。お寺を通じて申し込みが必要ですので、参加希望者は實相寺までご一報下さい。

主催：高松市、香川県地球温暖化防止活動推進センター

地球温暖化の現状と COOL CHOICE
～私たちにできること～

異常気象が多発している現在の地球、これからどうなるの？私たちにできることは？
なかなか広がりがない地球温暖化への理解と対策・

お寺には人が集まる行事などがあり、また、ご住職が地元の皆様などとお話する機会があるかと思えます。そこで、高松市内の各寺院の管轄に地球温暖化の現状をご理解いただき、法話の中などで少しでも地球温暖化について触れてお伝えしていただきたく本セミナーを開催しますので、是非ご参加ください。

◆挨拶：高松市環境局長、香川県地球温暖化防止活動推進センター長

かたやま もとこ
片山 仁子 氏

香川県地球温暖化防止活動推進員
地球温暖化防止コミュニケーション
推進生アドバイザー
おたけはるみ代表理事

平成30年 8月30日(木) 10:30〜12:00【開場 10:00】
健康ステーション大会議 (瓦町FLAG8階) 【定員:100人】 先着順

お申し込みは、下記に記入しFAX087-834-4555にてお申込みください。(返信不要)

お名前	お名前	お名前
フリガナ	フリガナ	フリガナ
住所	住所	住所

【高松市環境局長兼推進員地球温暖化対策室 (TEL 839-2394)、香川県地球温暖化防止活動推進センター (TEL 831-7770)】

「信」何を信じるのか②

禅宗が仏心の体験的理解を重視することとは前回述べましたが、ではどうやってそうした体験を得るかといえば、それはとりもなおさず坐禅によつてです。

昨今、日本でもストレス軽減法としてマインドフルネスが話題になっていますが、そもそも欧米でマインドフルネスを最初に提唱したのは、ティク・ナット・ハン師とマサチューセッツ大学のジョン・カバット・ジン博士です。前者はベトナム臨済宗の禅僧であり、後者は韓国人禅僧に師事しています。またマインドフルネスという言葉自体、イギリスのパーリ語研究者、リース・デービッツが仏教の「八正道」の一つである「正念」を意

味するパーリー語の *satī* (正しくは *saṃma-satī*) を英訳した語とされます。この様に昨今のマインドフルネスブームは紛れもなく仏教に由来します。

禅宗も含めて中国仏教の坐禅は全て、『天台小止観』を基としていますが、「止観」とは *śamatha-vipassanā* というサンスクリット語の漢訳です。「気づきの瞑想」であるマインドフルネスは、テラワール仏教(南伝仏教)同様にヴィパッサナー瞑想、すなわち「観」を中心に行うのに対し、現代日本の臨済宗で行っている坐禅は殆どが意識を呼吸に集中させるサマタ瞑想、「止」を中心に行っています。

禅宗が教義の知的理解ではなく、仏心の体験的理解を信心の根底に置くのであるのかを明確にする社会的責任がありますが、禅宗の場合、それは単なる先祖

れば、やはり坐禅の実践指導や瞑想法の研究も重要だと思いますが、残念ながらこれまで宗門には「黙って坐れ、坐れば判る」といった風潮がありました。しかし近年ヨガやマインドフルネスが注目されたことで、伝統的仏教の周辺でも少しづつ坐禅の内容に関心が高まっています。

先ごろオウム真理教の教祖及び幹部の死刑が執行されましたが、優秀な多くの若者を凶行へと走らせた原因が何だったのかは未だ解明されていません。恐らくそこにはある種の宗教的体験があったのだらうと想像出来ます。

歴史を見ると、時に宗教は世俗の価値と相反することもあります。だからこそ伝統仏教といえども教団は何を信仰して

いるのかを明確にする社会的責任がありますが、禅宗の場合、それは単なる先祖供養や派生した禅文化だけにとどまるものではありません。いわば禅の本質が問われているといえましょう。

また昨今は構造的な社会格差が拡大し、言いようのない不満や不安を抱えている人も多く、新幹線での無差別殺人や介護施設や病院での従事者による連続殺人も個人の資質だけが原因ではない気もします。さらに相次ぐ自然災害による被災者の心のケアも大きな課題です。

今こそ正しい宗教による心のケアが必要とされている氣がしますが、その為には、まず我々僧侶自身の心、ケアする側の心が問題となつてきます。